

靴

■例年にない寒さが続いているが、これだけ寒いと足元の冷えが応えてくる。この時期、家の中でも靴下が欠かせない。厚手のものを履きたくなる。歴史をさかのぼってみると編み物とほぼ同じ年代紀元前2～3世紀頃、アラビア遊牧民族が靴下を作っていたとの記録があるそうだ。現在残っている最古の靴下は、4～5世紀にエジプトで作られていた厚手の毛糸で編んだ「ソックス」とある。今のように機械で編むようになったのは16世紀イギリスのウィリアム・リー氏が手動の機械式編み機を発明したのが始まりだとの事。■日本では、5世紀頃「襪：しとうず」と呼ばれる絹を縫い合わせた布製の履物が伝わり、その後、足袋に変化していったとか。日本も昔から何らかの履物があったらしいが庶民には縁遠いものだったらしい。国内で本格的に生産（1870年明治3年）が始まったのは、元武士で実業家の西村勝三氏がイギリスから機械を仕入れて作り出したのが始まりである。その時の工場が時を経て現在では、あの有名な靴メーカーである「リーガル・コーポレーション」になったのは有名な話である。■この靴下、日本一の産地は奈良県である。明治43年吉井泰二郎氏がアメリカより機械を持ち帰り、現在の奈良県広陵町で工場を設立し、今に至っている。奈良県は、山が多く農業用の面積が狭いため副業が必要とされていたことや繊維問屋が多く集まる大阪に近かったことなどが設立の理由らしい。今や婦人用、子ども用、スポーツソックスを含め生産量が全国一に成長している。また、素材にもさまざまな工夫があり5本指ソックスなどユニークな靴下もたくさん店先に出回っている。足元の温もりを支える靴下は奈良県が日本一！TVの県民showで自慢したくなる内容である。2018.2.1